

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
数学	数学		東京書籍

	着眼点	意見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元内のまとまりごとの確認問題ページ数 計 27.8 単元末の確認問題のページ数 計 61.8 上記の問題の他に問の類題が巻末に記載されており、単位時間毎に補充できるようによく工夫された構成になっている。</li> <li>○ 「大切にしたい数学の学び方」に沿った視点で問題解決の過程を記載している。まずは「自分の考え」をもった上で「他者の考え」を知り比較ができるようによく配慮された構成となっている。</li> <li>○ 章の導入で単元で学ぶ内容を大まかに網羅した問題を提示しており、単元の学習を通して身に付けたい力を明確にしている。</li> </ul>
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各章で、「基本の問題」、「章の問題 A」、「章の問題 B」が用意されており、発展的に問題演習に取り組める構成になっている。</li> <li>○ 「数学のまど」に章で学習した内容を活用して解くことができる問題が発展的に位置付けられている。</li> <li>○ 巻末に各領域の学習内容がうまくまとめられた「学びのベース」が用意されており、生徒がこの内容を活用しながら学習課題を解決し、系統的な理解が促されるようよく工夫されている。</li> </ul>
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単位時間の学習内容で提示される問題に、「考えてみよう」、「調べてみよう」などの記載があり、生徒が主体的に深く学ぶことができるよう配慮されている。</li> <li>○ 深い学びを促す具体的な問題では、「問題をつかむ」、「見通しを立てる」など、生徒の思考の流れに沿った記載があり、数学的な見方・考え方を深めながら学ぶことができるようよく工夫されている。</li> <li>○ 章の後半の「身のまわり 深い学び」の項では、単元の学習内容を活用しながら web コンテンツ等を用いて仲間とともに深く学ぶことができるようよく工夫されている。</li> </ul>
2	(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「例」・「例題」等の記載数 計 210</li> <li>○ 「数学の目でふり返ろう」で、各学年で問題を解決するときに使った考え方の共通点がまとめられており、自分で学び直しながら取り組むことができるよう、よく工夫されている。</li> <li>○ 「数学の自由研究」や「章末問題」の中には現代の社会問題と関わった題材もあり、学習の意義が実感できるようよく配慮されている。</li> </ul>
	(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章末には「ふり返りレポート」が位置付けられ、学んだことのポイントをまとめたり、学習内容と身のまわりの事象を結び付けたりする場となるよう工夫された問いになっている。</li> <li>○ 「クイックチェック」という評価問題で、身に付けるべき学習内容を振り返られるようにしている。</li> </ul>
	(3) ICTを活用した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各ページに二次元コードが位置付けられ、補充の問題やフラッシュカード式の問題が用意されている。</li> <li>○ シミュレーションがきめ細かく作られている。</li> <li>○ 他教科や SDGs との関連がリンクから知ることができ、教科等横断的な学びを実現するための工夫がよくなされている。</li> </ul>
3	(1) 教科書の厚み、重量	<p>1年生 322 ページ    2年生 258 ページ    3年生 290 ページ 1年生 544 g        2年生 420 g        3年生 467 g</p>
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ルビなどの小さい文字にはUDフォントを採用し、配色にはカラーユニバーサルデザインを取り入れている。</li> <li>○ 重要語句は太字で強調され、新出用語にはふりがなが付けられている。</li> </ul>
	(3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表紙など手触りがいい材質になっている。</li> <li>○ 練習問題には、チェック欄がついており、どこまで取り組んだのか生徒が理解しやすいように配慮されている。</li> <li>○ 色の数や記号の形の種類が少なくシンプルで見やすく、生徒の思考がスムーズに流れる工夫がよくなされている。</li> </ul>

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
数学	数学		大日本図書

	着眼点	意見
1	(1) 資質・能力の三つの柱 （「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元内のまとめりごとの確認問題ページ数 計 30.2 単元末の確認問題のページ数 計 66.1 上記の問題の他に問の類題と発展問題が記載されており、単位時間毎に補充できるように工夫された構成になっている。</li> <li>○ 「問題発見・問題解決の流れ」に沿った視点で問題解決の過程を記載している。1つ1つの設問に答えていくことで、課題解決に近づいていくように配慮されている。</li> <li>○ 章の導入に学習内容の概要を示し、生活や数学の学習の中から問題を見いだす構成となっている。</li> </ul>
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単位時間の学習活動に関わって発展的な問題に取り組めるよう「学びにプラス」が用意されていたり、練習問題の発展的な内容である「プラス・ワン」が用意されていたりして、生徒の発展的な学習を促す構成となっている。</li> <li>○ 単位時間の学習課題の解決に必要な既習内容が、適当に記載されており、生徒の系統的な学習を促す構成となっている。</li> <li>○ 具体的で発展的な問題として、巻末に「もっと数学の世界へ」という課題学習が用意されている。これは生徒が解く問題量も多く、よく工夫された内容となっている。</li> </ul>
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章の導入に具体的な問題が用意され、単元の学習内容を見通したり、学びに向かう意欲を喚起したりできるような構成となっている。また、その内容が次時以降にも引き継がれ、一貫性のある学びができるよう工夫されている。</li> <li>○ 登場人物の考え方が意図的に比較される構成となっており、生徒がその時間の学習内容を多面的・多角的に理解できるよう工夫されている。</li> <li>○ 数学的な活動を通して学習を深める内容の時間には、その活動がスモールステップで分かれており、筋道の通った理解が促される構成となっている。</li> </ul>
2	(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「例」・「例題」等の記載数 計 117</li> <li>○ 「活用・探究」や「発見！仕事のなかの数学」で学んだ内容を活かしたり、職業と繋げて考えたりする箇所があり、学習の意義を実感できるようよく工夫されている。</li> </ul>
	(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章末に学びを振り返る場が設定されており、学習内容を使えるようになってよかったことや、身のまわりで学習内容が活かされているものなどをまとめられるように工夫されている。</li> </ul>
	(3) ICTを活用した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ シミュレーションは、考えるきっかけにしたり学習内容を確認したりすることを前提に作成されている。</li> <li>○ 学習内容に関連する仕事をしている人へのインタビューを見ることができる。</li> </ul>
3	(1) 教科書の厚み、重量	1年生 322 ページ    2年生 248 ページ    3年生 300 ページ 1年生 544 g        2年生 418 g        3年生 504 g
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 書体にはUDフォントを採用し、配色にはカラーユニバーサルデザインを取り入れている。</li> <li>○ 重要語句は太字で強調され、新出用語にはふりがなが付けられている。</li> </ul>
	(3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数学用語の索引が多く、用語をもとに基礎的・基本的な知識・技能の定着につながるができる。</li> <li>○ グラフを書き込むシートや巻末の付録が使いやすいように設計されており、生徒にとって扱いやすいものになっている。</li> </ul>

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
数学	数学		学校図書

	着眼点	意見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元内のまとめりごとの確認問題ページ数 計 43.0 単元末の確認問題のページ数 計 92.0 上記の問題の他にその学年の復習問題が巻末に記載されている。基礎・基本問題には色を付けており、復習できるように工夫された構成になっている。</li> <li>○ 「数学的活動」として問題解決の過程を記載している。どのような見方・考え方を働かせるとよいかを位置付けており、生徒が問題の解決方法を考えやすいように配慮されている。</li> <li>○ 単元の導入で身の回りや数学の学習の中から疑問に思ふ話題を取り上げ、それ以降で解決したい疑問を問題として考え直す構成になっている。</li> </ul>
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単位時間の学習内容について、「どんなことが分かったかな」と「次の課題へ！」が毎時間位置付けられており、生徒の系統的な学びを促す構成となっている。</li> <li>○ 章末問題は「基本」⇒「応用」⇒「活用」、さらに「深めよう」という4段階の発展性のある問題構成となっており、生徒の発展的な学びを促すためによく配慮された構成となっている。</li> <li>○ 巻末には「さらなる数学へ」という発展的な問題が用意されており、さらにその中で高等学校の学習内容との関連やレポートの書き方等の記載があり、生徒が興味・関心をもちながら発展的に学ぶことができるようになっている。</li> </ul>
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題解決に必要な「見方・考え方」が明示されており、生徒が問題解決の中で数学的に深く考えられるような構成となっている。</li> <li>○ 男の子と女の子が対話をしながら問題を考える場面が多数あり、生徒はこれらの記載を参考に対話的な学びの中から課題追究を行えるようになっている。</li> </ul>
2	(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「例」・「例題」等の記載数 計 251</li> <li>○ 各章末や「さらなる数学へ」で現代の社会問題や仕事に関わった数学的考察ができる問題があり、学習したことが活かせるようよく配慮されている。</li> </ul>
	(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章末にできるようになったことのチェックリストが位置付けられている。項目が絞られており、それに沿って自分自身を振り返ることができるようよく工夫された構成になっている。</li> <li>○ 章末には、単元の学びを振り返るチェック欄と「さらに学んでみたいこと」を記述する欄が用意されており、生徒自身が学びを調整するとともに、教師が主体的に学習に向かう態度を評価できるようになっている。</li> </ul>
	(3) ICTを活用した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習に関連するホームページへのリンクが用意されており、プログラミングの学習にも対応している。</li> <li>○ 補充問題では時間の上限や解答の入力の仕方などを自分でカスタマイズして、問題に取り組むことができる。</li> </ul>
3	(1) 教科書の厚み、重量	1年生 324 ページ    2年生 266 ページ    3年生 326 ページ 1年生 550 g        2年生 455 g        3年生 554 g
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 書体にはUDフォントを採用し、配色にはカラーユニバーサルの観点を取り入れている。</li> <li>○ 重要語句は太字で強調され、新出用語にはふりがなが付けられている。</li> </ul>
	(3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表紙など手触りがいい材質になっている。</li> <li>○ 巻末の付録が充実しており、生徒が体験的に学習に取り組めるようよく工夫がされている。</li> <li>○ 教科書の小口が、単元ごとに色分けされており、学習ページを開きやすいように配慮されている。</li> </ul>

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
数学	数学		教育出版

	着眼点	意見						
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元内のまとめりごとの確認問題ページ数 計 31.2 単元末の確認問題のページ数 計 86.0 上記の問題の他に問の類題が巻末に記載されており、単位時間毎に補充できるように工夫された構成になっている。</li> <li>○ 章末問題の直前に「学習のまとめ」として章を振り返ることができるページがあり、学んだことを定着することができるよう配慮されている。</li> <li>○ 単元の導入で身のまわりの事象に関する話題を取り上げ、それ以降で導入課題「Let's Try」を位置付ける構成になっている。</li> </ul>						
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章の学習を始める前に、既習内容を想起させる問題が用意されており、生徒の系統的な理解を促す工夫がされている。</li> <li>○ 単位時間ごとでも、「もどって確認」のコーナーで既習内容に立ち返って問題解決できるよう工夫がされており、生徒の系統的な理解を促す工夫がある。</li> <li>○ 章の最後には、学んだ内容をまとめるページと発展的な内容を扱う「数学の広場」のページが設定されており、定着と発展を同時に行うことができる工夫がある。</li> </ul>						
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学びのプロセス」に沿った視点で問題解決の過程を記載している。身のまわりの問題を解決する方法を例示してから問題を位置付けており、生徒が数学的な見方・考え方を活用して解決しやすいように配慮されている。</li> <li>○ 章の終わりに「力をのばそう」、「学んだことを活用しよう」の項があり、生徒に単元で学んだことを具体的な場面で積極的に活用させようと意図性のある構成になっている。</li> </ul>						
2	(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「例」・「例題」等の記載数 計 221</li> <li>○ 巻末の「数学ライブラリー」で学びを活かす問題がある。</li> <li>○ 「学びのマップ」で小学校からこれまでの学習内容が体系的にまとめられており、個の実態に応じて学び直しができるような配慮がよくされている。</li> </ul>						
	(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章末に「学習感想」をまとめる場があり、わかったことやよかったこと、大切だと感じたことや気づいたこと、さらに学習したいことなどの視点を与えている。また、学習感想の例が示されており、生徒が自身で学びをふり返られるようよく工夫された構成となっている。</li> </ul>						
	(3) ICTを活用した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習に関連するウェブサイトへのリンクが用意されている。</li> <li>○ 動画やシミュレーション等のコンテンツがあり、生徒の自力解決をサポートするような位置付けがされている。</li> </ul>						
3	(1) 教科書の厚み、重量	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">1年生 344 ページ</td> <td style="text-align: center;">2年生 276 ページ</td> <td style="text-align: center;">3年生 312 ページ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1年生 582 g</td> <td style="text-align: center;">2年生 453 g</td> <td style="text-align: center;">3年生 518 g</td> </tr> </table>	1年生 344 ページ	2年生 276 ページ	3年生 312 ページ	1年生 582 g	2年生 453 g	3年生 518 g
	1年生 344 ページ	2年生 276 ページ	3年生 312 ページ					
	1年生 582 g	2年生 453 g	3年生 518 g					
(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 書体には主にUDフォントを採用し、配色にはカラーユニバーサル観点を取り入れている。</li> <li>○ 重要語句は太字で強調され、新出用語にはふりがなが付けられている。</li> </ul>							
(3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章末に「工夫してノートを書こう」の項があり、生徒がノート記述で表現力を高めていけるような工夫がある。</li> <li>○ 章末の問題には、◎○△で自己評価できるようにされており、単元末の自身の学びの理解度を振り返られるように工夫されている。</li> </ul>							

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
数学	数学		啓林館

	着眼点	意見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元内のまとめりごとの確認問題ページ数 計 23.2 単元末の確認問題のページ数 計 81.7 上記の問題の他に問の類題が二次元コードのリンク先に記載されており、時間毎に補充できるようよく工夫された構成になっている。</li> <li>○ 章の導入で生活や数学の話題を取り上げ、今までの学習との違いを明らかにしている。</li> <li>○ 問題解決の過程をステップ1～3で記載している。ステップ1には「問題を設定」という視点を位置付けており、日常の事象から問題を見出す力をつけることができるよう工夫された構成になっている。</li> </ul>
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各章末に「学びをたしかめよう」⇒「学びを身につけよう」、巻末に「学びをふりかえろう」⇒「力をつけよう」⇒「学びをいかそう」の発展的な問題が用意されており、生徒が発展的な力を身に付けるための学習ができるよう、よく工夫された構成となっている。</li> <li>○ 教科書の所々でキャラクターが問題解決に必要な既習内容や考え方を示唆し、生徒が系統的な考え方ができるように工夫されている。</li> <li>○ 「1、2年のふりかえり」の記載があり、生徒が同じ学習領域の中で系統性を大切にしながら学習を進めることができる構成となっている項がある。</li> </ul>
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章や節の導入で具体的な問題が提示されるとともに、「話しあおう」という活動が用意され、生徒同士の対話的な学びが促されている。</li> <li>○ 各章の利用問題では、発展的な問題に取り組む中で思考を組み立てる「ステップ」が用意されており、生徒が事象を数学的に捉え深く学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「きまりを見つける」、「逆向きに考える」等、生徒が数学的な見方・考え方を働かせ、深く学ぶことができるよう工夫されている。</li> </ul>
2	(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「例」・「例題」等の記載数 計 237</li> <li>○ 巻末の「数学広場」において、学び直しとともに身の回りの問題を、数学を活用して解決できる問題があり、個のペースに合わせて学びを進めることができるよう配慮されている。</li> </ul>
	(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章の最後に章の学習を終えて、わかったこと、できるようになったこと、さらに学んでみたいことをまとめる場があり、その例も示されている。例の文章にはその章の学習のポイントが示されており、生徒が振り返りやすくなるような工夫がされている。</li> </ul>
	(3) ICTを活用した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すべての章にコンテンツがあり、補充問題の数が充実している。</li> <li>○ 問題の内容や立体図形などのイメージをもちやすくなるようシミュレーションが用意されている。</li> </ul>
3	(1) 教科書の厚み、重量	1年生 300 ページ    2年生 236 ページ    3年生 280 ページ 1年生 490 g        2年生 393 g        3年生 463 g
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 書体にはUDフォントを採用し、配色にはMUD協会の検証を受けている。</li> <li>○ 重要語句は太字、橙色囲みで強調され、新出用語には、ふりがなが付けられている。</li> </ul>
	(3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表紙など手触りがよい材質になっている。</li> <li>○ 章末問題には一問ごとにチェック欄がついており、どこまでできたか生徒が理解しやすいように配慮されている。</li> </ul>

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
数学	数学		数研出版

	着眼点	意見						
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元内のまとめりごとの確認問題ページ数 計 39.6 単元末の確認問題のページ数 計 62.0 上記の問題の他に補充問題が二次元コードのリンク先に記載されており、学習を振り返れるよう配慮されている。</li> <li>○ 問題解決の過程を、生徒の対話形式で位置付けている。数学的な見方・考え方を働かせたい場面を生徒が意識しやすいように配慮されている。</li> <li>○ 章の導入で生活や数学の話題を取り上げ、単元の内容に繋ぐような構成になっている。</li> </ul>						
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各章に入る前に「ふりかえり」のページが用意されており、生徒に既習内容を想起させる工夫がされている。</li> <li>○ 章末には「学んだことを活用しよう」のページや高等学校の学習内容に挑戦するような内容が用意されており、生徒の発展的な学びを促す構成となっている。</li> <li>○ 巻末に各学習領域の関連を示した表があり、生徒がこの表をみながら系統的に学習ができるように工夫されている。</li> </ul>						
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元のはじめに具体的な場面の問題が提示されており、それらの問題を多くの登場人物が議論する様子が載せてあり、生徒の対話的な学習を促す構成となっている。</li> <li>○ TRY 問題が多く用意されており、生徒が活動を通して課題解決できるよう問題の提示の仕方が工夫された構成となっている。</li> </ul>						
2	(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「例」・「例題」等の記載数 計 260</li> <li>○ 「数学旅行」で学習したことが活かせる問題があり、学習する意義を実感できるよう工夫されている。</li> </ul>						
	(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書の最後に「学びの自己評価」として、自分で学ぶ力と学び合いの力についてのチェック項目が位置付けられており、日々の学習でチェック表の内容が達成できるように工夫されている。</li> </ul>						
	(3) ICTを活用した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習内容の横に「Link」の印と「補充」「イメージ」「考察」などのコンテンツの内容を示す記載があり、目的に応じて活用できるようよく配慮されている。</li> <li>○ フラッシュカードのように使えるコンテンツがある。</li> <li>○ 「探究」のコンテンツでは、身のまわりの事象を数学的に考える問題が位置付けられている。</li> </ul>						
3	(1) 教科書の厚み、重量	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">1年生 316 ページ</td> <td style="width: 33%;">2年生 268 ページ</td> <td style="width: 33%;">3年生 324 ページ</td> </tr> <tr> <td>1年生 518 g</td> <td>2年生 438 g</td> <td>3年生 529 g</td> </tr> </table>	1年生 316 ページ	2年生 268 ページ	3年生 324 ページ	1年生 518 g	2年生 438 g	3年生 529 g
	1年生 316 ページ	2年生 268 ページ	3年生 324 ページ					
	1年生 518 g	2年生 438 g	3年生 529 g					
(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 書体にはUDフォントを採用し、配色にはカラーユニバーサルデザインの観点を取り入れている。</li> <li>○ 重要語句は太字で強調され、新出用語にはふりがなが付けられている。</li> </ul>							
(3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 使われている色が淡い色になっており、視覚的な刺激に配慮されたデザインになっている。</li> <li>○ ページ表記が教科書上部に位置付いており、学習ページを開きやすいように配慮されている。</li> </ul>							

教科	種目	<b>意見書</b>	発行者
数学	数学		日本文教出版

	着眼点	意見
1	(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元内のまとまりごとの確認問題ページ数 計 36.3</li> <li>○ 単元末の確認問題のページ数 計 45.2</li> <li>○ 上記の問題の他にチャレンジ問題と補充問題が記載されており、単位時間毎に補充できるように工夫された構成になっている。</li> <li>○ 身近なことからを数学の問題に捉え直した上で課題解決していく構成となっている。そのため、問題解決の見通しをもちやすいようになっている。</li> <li>○ 章の導入に生活や数学の学習の中から学習内容に繋がる話題を扱い、単元の概要や目標を示す構成である。</li> </ul>
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章の導入に「次の章を学ぶ前に」のページがあり、生徒がその章の学習を行う上で必要となる既習内容の復習が行えるようになっており、系統的な理解を促す構成となっている。</li> <li>○ 章末に「とりくんでみよう」のページがあり、章の学習内容と関連のある高等学校の問題等が用意され、生徒の系統的・発展的な学びを促す工夫がされている。</li> <li>○ 巻末に「数学マイトライ」があり、具体的な事象を取り上げながら発展的に学ぶ問題が用意され、生徒が一人でも発展的に学べるよう工夫されている。</li> </ul>
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学びに向かう力を育てよう」の記載があり、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」とともに、主体的に学習に取り組む態度を育む問題が用意されている。</li> <li>○ 所々に「大切な見方・考え方」の記載があり、そこに問題解決に必要な数学的な見方・考え方が示されており、生徒の深い学びを促す工夫がされている。</li> <li>○ 章の後半には、「学び合おう」の小節が用意されており、生徒が仲間とともに話し合いながら理解を深められる構成となっている。</li> </ul>
2	(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「例」・「例題」等の記載数 計 293</li> <li>○ 「数学マイトライ」で個の学習状況に応じて取り組める補充問題がある。また、問題ごとに教科書のどこのページに関する問題なのかがわかるよう記載があり、立ち返って学び直すことができるよう配慮されている。</li> </ul>
	(2) 生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書の最後にふり返しシートが冊子でついている。学習内容についてのよさや、大切だと思った考え方、疑問に思ったことやさらに考えたいと思ったことをまとめられるよう構成がよく工夫されている。</li> </ul>
	(3) ICTを活用した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アニメーションやシミュレーションなど、学習内容の理解を深めるためのツールが多く準備されている。</li> <li>○ フラッシュカードのように使えるコンテンツが準備されている。</li> <li>○ 「見る」「ためす」「身につける」などコンテンツ内容の記載があり、活用しやすいようよく工夫されている。</li> </ul>
3	(1) 教科書の厚み、重量	1年生 324 ページ    2年生 264 ページ    3年生 300 ページ 1年生 542 g        2年生 437 g        3年生 500 g
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見やすいユニバーサルデザインフォントである。</li> <li>○ 見やすく適切な行間である。</li> <li>○ 写真の掲載は必要最低限に抑えてある。</li> </ul>
	(3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まとめや用語の説明などは、色を付けた枠内に書かれており、視覚的に分かりやすいよう配慮されている。</li> <li>○ ふり返しシートがノートに貼れるサイズで設計されており、ノート学習を充実させるものとなっている。</li> </ul>

